

# 長岡市地域女性つながり支援事業【新潟県長岡市】

個別事業費	4,950千円
交付金額	2,475千円

## 地域の実情と課題

本市では、令和5年度の人口10万人に対する自殺死亡率は26.4であり、国と県の数値を上回っている。また、令和3年度の自殺者数は女性が男性を上回った。コロナ禍をきっかけに経済的な困難や孤独・孤立を抱える女性が増えていると考えられる。

気軽に話ができたり、同じ悩みを共有し合えたりできる居場所づくりを継続的に求める声が多く聞かれることから、悩みを抱え込んでいる女性がそれを話せる場所づくりが必要とされている。

## 事業の特徴

市民活動団体とのネットワークを持つNPO法人市民協働ネットワーク長岡に業務を委託し、子ども食堂やフードバンクをはじめ、様々な団体と協力して事業を展開した。

市民活動団体の特色を把握する受託者は、各団体の強みを生かし巻き込みながら、さまざまな企画を実施し、生理用品の配布による事業の周知や居場所の提供につながるイベントなどを効果的に実施した。同時に、困難な問題を抱える方に対する支援に当たる団体の掘り起こす効果もあった。

## 事業の効果

生理用品等の提供では、保健師の訪問時に紹介してもらうなど、本当に必要としている人に効果的に配布することができている。

相談対応は件数は少なかったものの、どこに聞いていいかわからない、誰かに話を聞いてほしいという相談を受けることができた。

居場所の提供では、様々な活動で女性同士が交流することで、話をすることで癒された、気晴らしになったなどの声が多く、社会とのつながりの回復を支援できた。

## 目的・目標

社会とのつながりを失い、経済的な不安を抱え、孤独・孤立している女性に対し、相談対応、生理用品等生活必需品の提供、お互いに支えあう居場所づくりなどを通じて、社会とのつながりの回復に向けた支援を行う。

### 【目標と達成状況】

- ・相談件数100件(達成状況38件)
- ・生理用品等提供数3,770個(達成状況5,151パック)
- ・居場所づくりのイベント参加者500人(達成状況247人)

## 連携団体

女性活躍推進法に基づき設置した「長岡市女性活躍推進会議」の構成団体に事業の周知等の協力を得ながら実施した。

定住自立圏域である近隣市町に周知を行い、利用者があった。新潟県女性財団と意見交換し、周知に協力を得たほか、支援方法などを共有し事業の開催に反映した。

## 今後の課題

生理用品等の提供は、地道に周知を行うほか、保健師等と連携するなど、相談・支援につながりやすい工夫を増やししながら、今後も実効性の高い周知方法を取り入れて実施する。

育成については、困難な状況にある方に対してなんらかの形で支援活動を行っている団体を事業に巻き込んで協働して活動を行うことにより、支援の輪が広がりにつつある。

# 事業の概要

## 生理用品・マスクの提供

女性に生理用品及びマスクを提供した。相談につながるようチラシやカードを同封した。

- 市の窓口や社会福祉協議会など
- 学校（小・中学校）
- フードバンク、子ども食堂
- イベント配布

合計 5,151パック

イベントでは、生理用品の配布と合わせて、事業の周知を行うことができた。また、市の保健師の訪問時に紹介してもらうことで本当に必要としている人に渡せる機会が増えた。配布した子ども食堂から「利用者にとっても喜ばれている」との報告があるなど、必要としている人に効果的に届けられている。

## 相談対応

専用電話回線を設け、平日の日中に相談対応を行った。直接来館した方や、イベント会場での相談対応も行った。

- 電話相談
  - ・月曜～金曜 10時～16時
  - ・相談件数 38件
- 女のスペースながおか出張相談会  
1回 4人
- 出張出前相談 2回  
(居場所づくりイベントと同時開催)



<出張出前相談会>

孤独解消を目的とした雑談を中心という方や、家族との関係や女性の身体についての相談など、幅広く相談を受けることができた。それにより相談者の孤独解消につながった。

## 女性がお互いに支えあうための居場所の提供

市内全域で女性が気軽に参加できる交流イベントや相談会を開催。

- 生理用品袋詰め作業  
(4回延べ12人参加。)
- ママの癒しサロン@ねんねこ  
(8回延べ24人参加。)
- 手術痕がある女性のための温泉ツアー  
(2回開催延べ93人参加)
- 30代～50代女性の癒しと相談の場提供  
(2回開催延べ65人参加)



<居場所づくり>

様々な活動をしながら参加者同士が交流することで、楽しい時間を提供できた。また、同じ悩みを共有できる場として、相談できる相手がおらずに悩むことが多かった女性たちが気持ち楽になり笑顔になった。

## 支援を行う人材の養成

手術痕ある女性のための温泉ツアーにおいて、大学院教授から最先端のがん治療の話聞き、がん治療の知識を得ることができた。また、患者の生の声を聞くとともに、同じ悩みをもつ相談者グループと支援者の交流により、技能向上に資することができた。

